

いしかり生きものかけはしビジョン(石狩市生物多様性地域戦略)要約版

1. いしかり生きものかけはしビジョン策定の背景と目的

石狩市は、たくさんの自然環境があります。しかし、地球上の生物多様性はかつてない速度で変化しており、本市の自然も同様です。本市に残る生物多様性を維持し、損失が進んだところでは回復ができるように努め、豊かな自然と多様な生物、そして市民が共生するまちを目指すために、令和6年3月に策定します。

2. 位置づけ

石狩市環境基本条例に基づく「石狩市環境基本計画」、まちづくりの総合計画である「石狩市総合計画」を上位計画とし、生物多様性の保全に関する方針や行動計画を定め、「豊かな自然と多様な生物、そして人とが共生するまち」を目指します。

3. 目指す姿と行動目標

7つの大きな課題をもとに2040年までに目指す姿と、2030年までの行動目標をまとめました。

地域の面的・空間的に保全	2040	本市の多様な自然環境の価値について、市内外の関係主体および市民に認識され、ネイチャーポジティブが実現されている
	2030	・生物多様性の保全上重要な地域の抽出(注目地域) ・必要に応じたアクションプランの策定
希少種・注目種の保全	2040	希少種・注目種がに生育、生息し続けられる環境がある
	2030	・注目種の選定 ・種、地域に合わせた情報の把握、保全対策を検討、実施 ・必要に応じたアクションプランの策定 ・情報共有体制の構築、普及啓発の促進
外来種対策	2040	外来種による生態系への影響が最小限に食い止められ、維持されている
	2030	・注目外来種の選定 ・種、地域に合わせた情報の把握、保全対策を検討、実施 ・必要に応じたアクションプランの策定 ・情報共有体制の構築、普及啓発の促進
野生動物との軋轢緩和	2040	人間と野生動物が適切な距離を保ち、鳥獣被害、餌付け問題が現在より減少している
	2030	・野生動物による影響や被害頻度などの情報把握 ・軋轢緩和対策における関係主体との体制、連携強化 ・野生動物との適切な距離、鳥獣被害や交通事故防止に関する普及啓発の促進
自然資源・地域資源の活用	2040	自然資源を持続可能な形で活用できている
	2030	・生物多様性保全を考慮した第一次産業の活性化促進 ・地域資源、自然資源の利活用促進 ・NbS(グリーンインフラ、Eco-DRR等)を取り入れた計画立案や対策実施 ・地域資源・自然資源を活用した事業の普及啓発
地球環境問題に関わる保全	2040	世界的な課題とされている地球環境問題関連の対策を積極的に実施している
	2030	・気候変動対策における再生可能エネルギー導入への配慮 ・リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル(4R)の促進と普及啓発 ・CSRなどで実施する環境保全・清掃活動などの取り組みの促進
生物多様性に関わる普及啓発の推進	2040	市民や観光客が、自然環境や知識に触れる機会が増加し、保全に関するアクションを実行している
	2030	・ウェブサイトなどの媒体を活用した情報公開、発信の促進 ・自然を学べる機会の創出 ・自然資源、地域資源の活用促進